



## 「カーボンニュートラル先進技術フォーラム」の開催について

令和 7 年 10 月 23 日  
広域産業振興局

### 【趣旨】

広域産業振興局では、今後の市場拡大や関連ビジネスの創出が期待される「水素・燃料電池、蓄電池等のカーボンニュートラルに資する技術」をテーマにフォーラムを開催します。

大学等の研究機関や企業による実用化をめざす最新の研究成果の紹介に加え、研究機関等との意見交換の場として交流会を開催することにより、大学・研究機関等と参加者のマッチングをめざします。

カーボンニュートラルに関連する事業への参入や、自社技術の新たな展開をお考えの企業の皆様方など、多くの方々にご参加いただきたく、域内企業へのご周知をお願いいたします。

なお、本事業は、関西広域連合が 11 月から展開する「KANSAI 脱炭素 months」の関連イベントとして、一体的に PR するとともに、連携して取組を進めています。

### 【「カーボンニュートラル先進技術フォーラム」開催概要】

日時 令和 7 年 12 月 2 日（火）13:00～17:40（受付開始：12:15）

場所 大阪工業大学 梅田キャンパス OIT 梅田タワー 常翔ホール  
（大阪市北区茶屋町 1 番 45 号）

※会場に参加者を受け入れながら、WEB で同時配信を行います。

#### プログラム

13:00～13:10 **開会**

13:10～13:50 **特別講演**

「今やるべき、建設業界での脱炭素・循環社会実現に向けた取り組み+万博での実践報告」

株式会社大林組 環境経営統括室 部長 中込 昭彦 氏

株式会社大林組 夢洲開発推進本部 夢洲まちづくり推進室 課長 繪本 啓太 氏

14:00～17:00 **カーボンニュートラル研究成果・先進技術発表（20 分×8 名）**

#### ①【植物由来の高機能材料】

「ナノセルロースによる高分子材料のカーボンニュートラル化」

地方独立行政法人京都市産業技術研究所 研究主幹 仙波 健氏

#### ②【植物由来の高機能材料】

「外部刺激に応答するクロロフィル集積体」

龍谷大学 先端理工学部 応用化学課程 教授 宮武 智弘氏

#### ③【蓄電池】

「硫化物系全固体リチウム電池の低抵抗化に向けた材料・シート化技術開発」

地方独立行政法人大阪産業技術研究所 森之宮センター 電子材料研究部  
研究員 加藤 敦隆氏

#### ④【蓄電池】

「各種電池用異形塗布装置『RS コータ』」

中外炉工業株式会社 開発本部 コンバーテック部 技術課 課長  
近藤 尚城氏

⑤【水素】

「水素分離膜と沸騰促進技術を組み合わせた水素製造プロセスの高効率化」

徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 教授 加藤 雅裕氏

⑥【水素】

「空気中の水蒸気を利用したグリーン水素生成」

鳥取大学 工学部 化学バイオ系学科 准教授 辻 悦司氏

⑦【水素】

「酸化還元酵素」

奈良女子大学 研究院自然科学系化学領域 准教授 本田 裕樹氏

⑧【水素】

「水素吸蔵合金を利用した水素貯蔵システムの熱特性解析と応用展開」

明石工業高等専門学校 機械工学科 准教授 田中 誠一氏

17:10~17:40 **交流会**

対象者・定員 カarbonニュートラル関連市場への新規参入や、自社技術の新たな展開を図りたい企業、及び産学連携や企業支援を推進する関係団体 等  
(会場参加) 250 名 (オンライン参加) 定員なし

参加費用 無料

申込方法 以下の URL からお申込みください。

<https://www.kouiki->

[kansai.jp/koikirengo/jisijimu/sanshin/omonatorikumi/greenbunya/10758.html](https://www.kouiki-kansai.jp/koikirengo/jisijimu/sanshin/omonatorikumi/greenbunya/10758.html)

申込締切 令和7年11月21日(金)

参考(前回の開催概要)

「カーボンニュートラル研究成果事業化促進フォーラム」

開催日 令和6年12月9日

参加者数 259 人(オンライン含む)

内容 水素・燃料電池、蓄電池等のカーボンニュートラルに資する技術における特別講演(1名)、研究成果発表会(6名)、ポスターセッション、交流会

【「KANSAI 脱炭素 months」について】

関西全体の脱炭素の推進のため、広域環境保全局事業の「関西脱炭素フォーラム2025」をメインイベントとして11月~12月に展開する取組。

「カーボンニュートラル先進技術フォーラム」は、「KANSAI 脱炭素 months」の関連イベントとして、シンボルマークを活用し、一体感を創出するとともに、専用ホームページのイベントカレンダーに掲載し、情報発信を行っています。

〈シンボルマーク〉

